

1. 理事会からのお知らせ

(1) 代表理事挨拶

フェローの皆様におかれましては平素から TCER の活動に多大なるご支援とご協力を賜り、感謝申し上げます。いくつかの事業につきまして近況をご報告いたします。

NBER、CPER、TCER が共同で開催してきた TRIO コンファレンスにつきまして、2015 年度は「国際金融の新潮流」をテーマとして東京大学で開催しました。2016 年度は「コーポレート・ガバナンス」をテーマとして開催する予定で折衝中です。一方、2016 年度の NBER-TCER 東アジア経済セミナーは Housing をテーマにシンガポール国立大学で開催の予定です。今年度の TCER=TIFO フェローシップ事業では、JICA とタイ教育省の研究者を招聘し日本で実施する共同研究に助成させていただきました。

TCER コンファレンス（旧逗子コンファレンス）事業では、木村福成慶應大学教授が中心になって続けてきた「国際経済学のフロンティア」をテーマとするプロジェクトが、出版事情の厳しい中、2016 年 5 月に東京大学出版会からコンファレンス・ヴォリュームを出版し、研究成果を世に問うことができる運びになりました。また今年度は、有村俊秀早稲田大学教授を中心としたメンバーが「環境経済学のフロンティア」をテーマとしたコンファレンスを開催しました。その成果をまとめた書籍も近いうちに出版できる見通しになっています。学術的に高く評価されてきた TCER の出版事業の伝統をいよいよ復活できそうです。

緊急課題対応事業として「検証・アベノミクス」をテーマに 2 年間継続してきた特別プロジェクトは、*Journal of the Japanese and International Economics* (2015, Vol.37, September) や *The Development Economies* (2016, Vol.54, No.1) に特集号を公刊し、学術的な成果を国際的に発信しました。2016 年度はこのプロジェクトの最終年度として総まとめの国際会議を開催し、その成果をやはり国際学術誌の特集号として公刊する予定です。

2016 年 3 月には昨年度に引き続いて、TCER ジュニアワークショップを早稲田大学で開催しました。若手研究者 7 名が研究成果を報告し、事前に完成論文を準備できた報告者には通常の学会のように討論者を招いてディスカッションも行いました。

若田部昌澄代表理事代理からのメールですすでにご存じの方も多いと思いますが、公益財団法人「留学生支援企業協力推進協会」が実施している、留学生を対象とした社員寮入居の募集案内をフェローの方々に適宜お伝えすることにいたしました。当財団法人は TCER に多大な資金援助をいただいている経済同友会が母体となっていて、とてもリーズナブルな条件で参加企業の社員寮を留学生に提供するプログラムを展開しています。この募集案内自体は各大学の留学生センターなどに情報提供されておりますが、残念ながら留学生にはあまり知られていないようです。この度 TCER のメーリングリストを通じて口コミで情報が広がっていくよう、お手伝いしたいと考えております。フェローの

皆様におかれましては折に触れて、該当するゼミの学生などにお知らせいただければ助かります。

2016年度のTCERの活動は5月末には幹事校が早稲田大学から東京大学に移ります。それに先立ちまして、私の個人的な事情から、4月より代表理事を福田慎一東京大学教授に交代していただくことになりました。引き続きTCERの活動にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

小西秀樹（代表理事・早稲田大学）

（2）2015年度後半の理事会報告

2015年度第2回理事会は、2016年2月23日（火曜日）15時30分～17時、飯田橋のTCER事務所において開催されました。

平成28年度の事業計画書及び平成28年度の予算書が承認されました。寄附者が用途を特定していない寄附金について、公益目的事業に要する経費に充てる割合および平成28年度投資方針書についても承認されました。現代表理事の辞任にあたり、後任の代表理事として福田慎一理事を選任することが承認されました。また、6名の新規フェローの入会も承認されました。経済同友会より社員寮入居留学生募集について協力要請があり、協力することが承認されました。理事監事候補者案についても承認されました。ホームページ更新作業の外部委託については継続審議となりました。

報告事項として、本年度の事業の執行状況について説明がありました。

（3）2015年度後半の評議員会報告

2015年度第2回評議員会は、2016年3月7日（月曜日）14時～14時45分、日本工業倶楽部で開催されました。平成28年度の事業計画書及び平成28年度の予算書が承認されました。

（4）所属先変更のご連絡のお願い

今年度中に所属先が変更になった方、新年度から変更になる方は、お手数をおかけしますが、TCER事務局（tcer@mbs.sphere.ne.jp）までご連絡下さい。また、メールアドレスの変更を希望なされるフェローも同様に事務局までご連絡ください。

必要事項は、氏名（フリガナ）、所属先、所属先住所（郵便番号）、電話番号、メールアドレスとなります。

（5）2016年度研究助成のお知らせ（フェロー以外も応募可能）

TCERでは、経済学研究者であればTCERフェローに限らずどなたでも応募することができます。個人研究助成を行っています。お知り合いにもご紹介下さい。

本制度設立の趣旨：本研究助成制度は、TCER フェローを含む経済学研究者の個人及び相互による経済学に関わる理論・実証面での萌芽的研究を支援することを目的としています。

応募資格：大学および研究機関に所属する経済学研究者（TCER フェローでなくてもよい）。ただし、同一テーマで過去3年以内に助成を受けた方（共同研究者である場合も含む）は応募できません。

助成対象期間：2016年4月～2017年3月

報告義務：2017年3月末までに所定の様式に従って研究成果報告書を提出するとともに、研究成果を東京経済研究センターワーキング・ペーパーとしてまとめる。これは RePEc や SSRN の TCER リサーチペーパーシリーズにも入ることになる。（なお研究成果の提出は2018年3月末まで延長できる。）

助成金額：1件当たり最高40万円

応募締め切り：2016年5月9日(月)午前9時

応募用紙：所定の応募用紙に入力し、Word ファイルをメールに添付して提出

応募先：TCER 事務局 E メールアドレス (tcer@mbs.sphere.ne.jp)

(6) 2016年度 TIFO=TCER フェローシップのお知らせ（フェロー以外も応募可能）

TCERでは、経済学研究者であればTCERフェローに限らずどなたでも応募することができる、TCER=TIFOフェローシップ事業を行っています。お知り合いにもご紹介下さい。

本制度設立の趣旨：本制度は、東南アジアに本拠を置く経済学研究者と日本の経済学研究者との間での、日本を含めた経済問題に関する共同研究を促進することを目的とし、公益財団法人東芝国際交流財団からの助成を受けて、東南アジアに本拠を置く経済学研究者を3週間から3カ月程度日本に呼び寄せる資金を提供するものである。

応募資格：日本国内の大学および研究機関に所属する経済学研究者（TCERフェローでなくてもよい）で、東南アジアに本拠を置く経済学研究者（以下共同研究者という）と日本を含めた経済問題に関する共同研究を行う予定の者。ただし、同一の共同研究者で過去3年以内に助成を受けた者は応募できない。

助成対象期間：2016年4月～2017年3月末の間で最大3ヶ月

報告義務：2017年3月末までに所定の様式に従って共同研究報告書・支出明細を提出するとともに、研究成果を東京経済研究センターのワーキング・ペーパーとしてまとめる。

これはRePEc やSSRNのTCERリサーチペーパーシリーズにも入ることになる。(なお研究成果の提出は2018年3月末まで延長できる。)

助成金額：総額100万円(1件あたり最高100万円)

応募締め切り：2016年5月9日(月)午前9時

応募用紙：所定の応募用紙に入力し、Wordファイルをメールに添付して提出

応募先：TCER事務局Eメールアドレス(tcer@mbs.sphere.ne.jp)

2. コンファレンスご案内・報告

公1 国際的学術研究・交流事業

(1) 日米欧研究交流事業(TRIO コンファレンス)報告

東京経済研究センター(TCER)は、2015年12月16日(水)と17日(木)の両日、米国NBERおよび欧州CEPRとの共催で「TRIO コンファレンス」を、東京大学経済学研究科棟6階会議室で開催した。「TRIO コンファレンス」は、米国および欧州諸国における著名な経済学研究者を東京に招いて、日本の経済学研究者とともに現代社会のホットイシューを報告・討論するコンファレンス・シリーズで、今回が第25回となる。今回のテーマは「国際金融の新潮流」で、東京大学金融教育研究センター(CARF)および日本経済国際共同研究センター(CIRJE)の支援を受けて、近年の国際金融情勢が世界経済にもたらす諸問題を多角的に議論した。日本側からは、塩路悦郎、櫻川昌哉、小枝淳子、加納隆、敦賀貴之、福田慎一、青木浩介、植田健一、河合正弘、Michal Fabingerらが報告者ないし討論者として参加した。また、海外からの参加者には、Gianluca Benigno(LSE)、Andrew Rose(University of California at Berkeley)、Charles Engel(University of Wisconsin)、Vahagn Galstyan(Trinity College Dublin)、Fabio Ghironi(University of Washington)、松山公紀(Northwestern University)、伊藤隆敏(Columbia University)、星岳雄(Stanford University)らいずれもこの分野でのトップクラスの研究者が含まれ、大変意義深い議論が展開された。

近年、主要国では、非伝統的な金融政策のもとで大規模な金融緩和が行われている。その一方で、これまで好調であった新興国経済の成長に陰りが見られ、欧州でもユーロ危機以降の不安定さが続いている。このため、いかに国際金融市場の危機を回避するかは日米欧いずれの地域でもタイムリーなトピックで、多角的な観点から活発な議論が展開され、大変有益であった。なお、TRIO コンファレンスの成果は、レフェリー・プロセスを経て、国際学術誌Journal of the Japanese and International Economies(JJIE)の特集号として刊行されることになっている。

開催日：2015年12月16日（水）～2015年12月17日（木）

開催場所：東京大学経済学研究科棟 6階大会議室

主催：Centre for Economic Policy Research (CEPR)

National Bureau of Economic Research (NBER)

Tokyo Center for Economic Research (TCER)

共催/後援：東京大学日本経済国際共同研究センター (CIRJE),

東京大学金融教育研究センター (CARF)

Organizer：Kosuke Aoki (The University of Tokyo and TCER)

Shin-ichi Fukuda (The University of Tokyo and TCER),

Takeo Hoshi (Stanford University and NBER),

Takashi Kano (Hitotsubashi University and TCER)

プログラム

Wednesday, December 16

Chair: Shin-ichi Fukuda, University of Tokyo and TCER

9:15 am

Gianluca Benigno, London School of Economics and CEPR

Contagious Sudden Stops

Discussant: Kosuke Aoki, University of Tokyo and TCER

10:15 am Break

10:30 am

Hiro Ito, Portland State University

Masahiro Kawai, University of Tokyo and CEPR

Trade Invoicing in the Japanese Yen and the Deutsche Mark in the 1980s and 90s: Lessons for Renminbi Internationalization

Discussant: Etsuro Shioji, Hitotsubashi University and TCER

11:30 am

Anya Kleymenova, University of Chicago

Andrew Rose, University of California at Berkeley and NBER

Tomasz Wieladek, Bank of England

Does Government Intervention Affect Banking Globalization?

Discussant: Kenichi Ueda, University of Tokyo and TCER

12:30 pm Lunch

Chair: Kiminori Matsuyama, Northwestern University

1:45 pm

Charles Engel, University of Wisconsin and NBER

Macroprudential Policy under High Capital Mobility: Policy Implications from an Academic Perspective

Discussant: Takatoshi Ito, Columbia University and NBER

2:45 pm Break

3:00 pm Vahagn Galstyan, Trinity College Dublin

Philip Lane, Trinity College Dublin and CEPR

Caroline Mehigan, OECD

Rogelio Mercado, Trinity College Dublin

The Holders and Issuers of International Portfolio Securities

Discussant: Masaya Sakuragawa, Keio University and TCER

4:00 pm Shin-ichi Fukuda, University of Tokyo and TCER

Strong Sterling Pound and Weak European Currencies in the Crises:

Evidence from Covered Interest Parity of Secured Rates

Discussant: Eiji Ogawa, Hitotsubashi University and TCER

5:00 pm Adjourn

Thursday, December 17

Chair: Takeo Hoshi, Stanford University and NBER

9:15 am

Ethan Ilzetzki, London School of Economics

Keyu Jin, London School of Economics and CEPR

The Puzzling Change in the International Transmission of U.S. Macroeconomic Policy Shocks

Discussant: Takayuki Tsuruga, Kyoto University

10:00 am Break

10:30 am Takashi Kano, Hitotsubashi University and TCER

Kenji Wada, Hitotsubashi University

The First Arrow Hitting the Currency Target: A Long-Run Risk Perspective

Discussant: Junko Koeda, Waseda University and TCER

11:30 am Matteo Cacciatore, HEC Montréal

Fabio Ghironi, University of Washington and NBER

Yurim Lee, University of Washington

Financial Market Integration, Exchange Rate Policy, and the Dynamics of Business and Employment in Korea

Discussant: Michal Fabinger, University of Tokyo

12:30 pm Lunch and Adjourn

(2) 東アジア研究交流事業 (NBER-TCER 東アジア経済セミナー) ご案内

2016年度 NBER-TCER 東アジア経済セミナー(East Asia Seminar on Economics、第27回)は2016年6月23-24日にシンガポールのシンガポール国立大学で開催の予定である(共催者はシンガポール国立大学)。Local Hostは、シンガポール国立大学ビジネス・スクール学群長の Bernard Yeung氏である。今年度のテーマは“Housing”である。ミクロ的なアプローチでは、豊富なビッグデータが得られるようになり、Housingの研究は大きく進歩している。一方、マクロでは、金融危機の原因になることの多い、Housing bubbleをいかに防ぐかの研究が、マクロ金融監督政策として研究されている。既に決定している報告者は NBER より、Hanming Fang (University of Pennsylvania), Tomasz Piskorski (Columbia University), Amit Seru (Booth School of Business, University of Chicago) の各氏である。東京経済研究センターからは、東京大学の渡辺努氏、Pennsylvania State University の吉田二郎氏(東京から派遣)の二名の派遣を予定している。伊藤隆敏、Andrew Rose の二名が引き続き、Co-organizers をつとめている。

(3) 環太平洋地域研究交流事業 (アジア危機コンファレンス) 報告・ご案内

環太平洋地域研究交流事業「アジア危機コンファレンス」は、TCERのメンバーがアジア太平洋地域の研究者と、アジア太平洋地域が直面する経済問題をテーマに研究交流を行うもので、例年、APEA (Asia-Pacific Economic Association) コンファレンスの一環として行われている。中国など新興国の台頭によって、2000年代のアジア太平洋地域は大きな成長を遂げたものの、中進国の罣や地政学的リスクも含め、その行く末には多くの不確定要素があり、持続的な成長に向けた分析やそのための制度設計は重要な研究テーマである。とりわけ東アジア地域は、生産や国際貿易など実体経済面では世界経済に大きなプレゼンスを占めるようになった一方で、金融市場の発展はいまだ脆弱な国が

少なくとも、金融システムのあり方を含めて数多くの論争を生んでいる。また、アジアインフラ投資銀行（AIIB）の設立に象徴されるように、これまでの世界経済の秩序の中で、実体経済面ではプレゼンスを高めている東アジア諸国がどのように関わっていくかは、重要な政策課題である。

2015年度の会議は、台湾国立大学において行われ、TCERは重要なスポンサーとして会議全体をサポートし、アジア環太平洋地域が抱える諸問題について、最近の理論分析の紹介や、国際貿易、国際金融、マクロ経済学、開発経済学などさまざまな観点から世界経済の安定に向けて関連テーマに関して議論を行う場を提供した。2016年度は、アメリカ・シアトルおよびインド・コルカタで会議を開催することを計画している。

（４）TCER コンファレンス事業（旧逗子コンファレンス）報告

2015年度のTCERコンファレンス事業は、昨年度までのTECRコンファレンス「国際経済学のフロンティア」の成果を、出版にとりまとめる作業を行った。成果は2016年度に出版予定である。

また、今年度は新たに「環境経済学のフロンティア（第1回）」が、3月21日に早稲田大学・早稲田キャンパスで開催された。当日は、環境経済学を中心に国際的な学術雑誌で活発に研究発表を行う6人の経済学者による報告が行われた。まず、武蔵大学・松川勇先生から「電力・エネルギーの経済学フロンティア」と題する報告が行われた。次に、富山大学・山本雅資先生から「廃棄物問題の実証分析」と題して、当該分野の包括的なレビューが行われた。次に、長崎大学・藤井秀道先生から「技術と環境問題」と題する既往研究のレビューと方法論に関する報告が行われた。ついで、「非対称情報下での環境政策—Weitzman(1974)以降の理論的展開—」と題して、関西大学・新熊隆嘉先生から理論的な研究の紹介があった。関西学院大学・東田啓作先生からは、「途上国の自然保全」として漁業資源の管理に関する経済分析が紹介された。最後に、「途上国の環境問題」として高知工科大学・小谷浩示先生から報告があった。当コンファレンス事業は、平成28年度中の日本語の書籍出版を目指しており、編者の片山東先生（早稲田大学）・有村俊秀先生（早稲田大学）も交えて、執筆者間の内容の調整も行われた。

公2 学術研究交流促進事業

（１）ミクロ経済分析事業（2015年度TCERミクロコンファレンス・DCコンファレンスとの共同開催）報告

2015年度TCERミクロコンファレンスは、10月12日（月・祝日）に第21回ディセントラライゼーションコンファレンス（DC）と共催の形で慶應義塾大学三田キャンパスにて行われた。先端的な研究報告に、活発な議論が繰り広げられ、盛況だった。参加人数は計40名だった。

なお、プログラム委員は、梶井厚志（京都大学）、グレーヴァ香子（慶應義塾大学）、近郷 匠（福岡大学）、坂井豊貴（慶應義塾大学・オーガナイザー）、関口 格（京都大学）、三浦慎太郎（神奈川大学）の6名であった（敬称略，50音順）。コンファレンスのプログラムとスケジュールは以下の通りである。

プログラム

9:00 受付開始

セッション A 午前の部（1）（大学院校舎 1 階 313 教室）

司会：井上 朋紀（明治大学）

9:15-9:55

横手 康二（早稲田大学経済学研究科博士後期課程）

Core and competitive equilibria: an approach from discrete convex analysis

9:55-10:35

井上 朋紀（明治大学政治経済学部）

Perfect Competition in Economies with Bads

セッション B 午前の部（1）（大学院校舎 2 階 325B 教室）

司会：平田 大祐（一橋大学）

9:15-9:55

平田 大祐（一橋大学経済学研究科）

On Stable and Strategy-Proof Rules in Matching Markets with Contracts

9:55-10:35

数村 友也（大阪大学経済学研究科博士後期課程）

Efficiency and strategy-proofness in object assignment problems with multi demand preferences

10:35-10:50 コーヒーブレイク

セッション A 午前の部（2）（大学院校舎 1 階 313 教室）

司会：渡邊 直樹（筑波大学）

10:50-11:30

村上 裕美（大阪大学経済学研究科博士後期課程）

Local Independency, Monotonicity and Axiomatic Characterization of Price-Money Message Mechanism

11:30-12:10

渡邊 直樹（筑波大学システム情報系）

Stable Sets of a Patent Licensing Game

セッション B 午前の部（2）（大学院校舎 2 階 325B 教室）

- 司会：三浦 慎太郎（神奈川大学）
- 10：50－11：30
中田 里志（一橋大学大学院経済学研究科）
A Characterization of Potentials on a Network
- 11：30－12：10
中川 訓範（静岡大学経済学部）
A Model of Referendum
- 12：10－13：20 ランチブレイク
- セッションA 午後の部（1）（大学院校舎1階313教室）
司会：近郷 匠（福岡大学）
- 13：20－14：00
中村 祐太（慶應義塾大学経済学研究科修士課程）
Non-manipulated agenda setting procedure
- 14：00－14：40
永岡 成人（神戸大学大学院経営学研究科）
Strategic Voting and Non-asymptotic Condorcet Jury Theorem: A Sufficient Condition for Superiority of Single Person Decision-making
- 14：40－15：20
河田 陽向（慶應義塾大学経済学研究科博士課程）
Cosine Similarity and the Borda Rule
- セッションB 午後の部（1）（大学院校舎2階325B教室）
司会：三宅 充展（東北大学）
- 14：00－14：40
細矢 祐誉（関東学院大学経済学部）
The Relationship between Revealed Preference and the Slutsky Matrix
- 14：40－15：20
三宅 充展（東北大学大学院経済学研究科）
Logarithmically homogeneous preferences
- 15：20－15：35 コーヒーブレイク
- セッションA 午後の部（2）（大学院校舎1階313教室）
司会：佐野 隆司（京都大学）
- 15：35－16：15
岡本 実哲（慶應義塾大学大学院経済学研究科）
A Dynamic Auction that improves the Ausubel Auction
- 16：15－16：55
佐野 隆司（京都大学経済研究所）

Improving Efficiency Using Reserve Prices: An Equilibrium Analysis of Core-Selecting Auctions

セッションB 午後の部(2) (大学院校舎2階325B教室)

司会: 関口 格 (京都大学)

15:35-16:15

和田 淳一郎 (横浜市立大学)

Apportionment behind the Veil of Ignorance

16:15-16:55

宮城島 要 (学振PD, 早稲田大学政治経済学術院)

Fair social orderings over allocations of risky prospects

16:55-17:10 コーヒーブレイク

招待講演 (大学院校舎1階313教室)

司会: 坂井 豊貴 (慶應義塾大学)

17:10-18:10

武岡 則男 (横浜国立大学)

Internal Conflict and Self-Control in Endogenous Preference Formation

(joint with Takashi Hayashi)

(2) ミクロ経済分析事業 (EAGT 2015) 報告

ゲーム理論は理論研究、応用研究を含め年ごとに研究者が増加し、その重要性も深まっている。国際ゲーム理論学会の組織も年々整備され、4年に1回の世界大会にも毎回多くの研究者が参加し研究報告が行われている。一方、北米では、ニューヨーク大学、stony brook 校では、毎年、ゲーム理論の国際学会が開かれており、ヨーロッパでは SING 国際会議が今年からヨーロッパゲーム理論国際学会と名称変更し、毎年継続して開かれている。これらの学会の特徴は地域の名称が付いていても、世界的にオープンな学会であることである。アジアではそのような国際学会に対応するものは開かれておらず、それに対応するものとして、今回の EAGT2015 が企画された。これを継続して開催することも、理事会で議論され、次回の計画もすすんでいる。

この国際会議により、東アジアのゲーム理論研究者が集い、研究報告し、議論をする場を積極的に与えることができた。なお、北米やヨーロッパの国際学会と同様、参加者は東アジアに限るものではなく、世界的にオープンであり、アメリカ、イギリス、ハンガリー、ドイツ、オーストラリア、オランダからも参加者があった。

期間: 2015年8月24日(月)~8月26日(水)

会場: 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館(新宿区西早稲田1-6-1)

共催: 公益財団法人 東京経済研究センター、早稲田大学経済学研究科、

大会セッション数および報告数

セッション数：27セッション

24 日午前 4 セッション、24 日午後 8 セッション

25 日午前 4 セッション、25 日午後 4 セッション

26 日午前 4 セッション、26 日午後 3 セッション

一般報告数：86

基調講演：3

Hans Peters (Maastricht University, the Netherlands),

"An Axiomatic Characterization of the Owen-Shapley Spatial Power Index"

Mamoru Kaneko (Waseda University, Japan),

"A Bridge between Inductive Game Theory and Epistemic Logic"

Kotaro Suzumura (Honorary Fellow of Waseda University, Japan),

"Consistency and Rationality: A Pilgrimage"

参加者数

3 日間延べ人数、300 人。

本大会には、アメリカ、イギリス、ハンガリー、ドイツ、オーストラリア、オランダ、中国、台湾、韓国、日本等の様々な国の大学や研究機関に所属する研究者や学生が参加した。

運営委員

荒木一法、船木由喜彦、荻沼隆、須賀晃一、田中久稔、戸田学、Robert Veszteg の 7 名の委員で大会運営委員会を組織した。運営は、船木由喜彦（大会運営委員長）を中心に各運営委員が、学会前、当日、学会後においてそれぞれの分担で協力して業務にあたった。当日は大きな混乱もなく、無事大会を終えることができた。

(3) マクロ経済分析事業（2015 年度 TCER マクロコンファレンス）報告

第 17 回 TCER マクロコンファレンスは 2015 年 11 月 7 日、8 日に一橋大学国立キャンパスにおいて開催され、約 70 名の内外の研究者が参加した。例年通り論文は国際公募を行い、プログラムコミティーにより選ばれた 5 本の論文報告および 2 つの招待講演、計 7 つの研究報告が行われた。本コンファレンスでは伝統的にマクロ経済学の範囲を広く設定しているが、今回に関しては、報告論文は金融政策に関するものが多かった。その一方、招待講演では企業統治と経済成長、および日本における失業のマクロモデルが扱われ、結果としてマクロ経済に関する広範囲な議論が交わされた。

プログラムは下記の通りである。

第 1 セッション

座長：小川一夫（大阪大学）

論文(1)

発表者：及川浩希（早稲田大学）

"Short- and Long-Run Tradeoff of Monetary Easing"

(上田晃三との共著)

討論者：荒戸寛樹（首都大学東京）、三野和雄（京都大学）

論文(2)

発表者：鶴飼博史（一橋大学）

"Transmission channels and welfare implications of unconventional monetary easing policy in Japan"

討論者：植田和男（東京大学）、小枝淳子（早稲田大学）

第 2 セッション

座長：櫻川昌哉（慶応義塾大学）

招待講演<1>

村瀬英彰（学習院大学）

「日本の長期停滞：弱い企業統治のマクロ経済学による分析」

第 3 セッション

座長：寺西勇生（慶応義塾大学）

論文(3)

発表者：上田晃三（早稲田大学）

"Strategic Central Bank Communications: Discourse And Game-Theoretic Analyses of the Bank of Japan's Monthly Reports"

(Kohei Kawamura、小橋洋平、鎮目雅人との共著)

討論者：白塚重典（日本銀行）、藤本淳一（政策研究大学院大学）

論文(4)

発表者：仲田泰祐（連邦準備制度理事会）

"Conservatism and Liquidity Traps"

(Sebastian Schmidt との共著)

討論者：小林慶一郎（慶応義塾大学）、肥前洋一（高知工科大学）

第 4 セッション

座長：阿部修人（一橋大学）

招待講演<2>

有賀健（京都大学）

"Japano-Sclerosis, Revisited"

第 5 セッション

座長：青木浩介（東京大学）

論文(5)

発表者：蓮井康平（神戸大学）

"Liquidity Trap and Optimal Monetary Policy Revisited"

(須合智広、寺西勇生との共著)

討論者：高橋修平（京都大学）、宮尾龍蔵（東京大学）

（5）若手研究者育成支援事業（2015年度ジュニアワークショップ）報告

2016年3月5日（土）早稲田大学にて TCER ジュニアワークショップを開催した。昨年度と同様に、政治経済学会の第7回研究大会のプログラムに組み込んでもらい、同学会の参加者もジュニアワークショップに出席できるようにした。結果、30名を超える参加者があった。

今回は1月中旬に応募を締め切り、7名の若手研究者から応募があり、全員を採択した。応募時にフルペーパーを用意できた方には討論者をつけた。1報告あたり45分とし標準的な学会報告よりも少し長めに時間をとり、詳細な報告と活発なディスカッションができるように配慮した。

今回は残念ながら早稲田大学に所属する方からの応募ばかりになってしまった。次回以降は、開催校以外からも若手研究者が多く参加して、この機会を活用してくれることを期待している。報告論文は以下の通り。

阿部貴晃（早稲田大学），Efficiency and the Core in Cooperative Games with Positive and Negative Externalities, 討論者：中田里志（一橋大学）.

劉水歌（早稲田大学），Influence Structures, ε -Approximation, and Nash Equilibria.

高橋大輔（早稲田大学），Withdrawal of Overseas Subsidiaries in Asia: The Case of the Japanese Food Industry.

阿部達也（早稲田大学），自動車の燃費改善によるリバウンド効果の推定.

Rong FU（早稲田大学），Employment Participation of Family Caregivers in Japan: More Than a Decade after Implementation of Long-Term Care Insurance.

鶴岡昌徳（早稲田大学），Do Auctions Really Encourage Competition? Evidence from Revenue Comparisons between Auctions and Negotiations in the Primary Market for Japan's 10-year

Government Bond, 討論者：岩本康志（東京大学）
庫川幸秀（早稲田大学）, Effectiveness of Feed-In-Tariff and Renewable Portfolio Standard
under Strategic Pricing in Network Access, 討論：中村靖彦（日本大学）

（6）TCER 定例研究会（2015 年度 TCER 研究会）報告

2016 年度の TCER 研究会は早稲田大学にて行われた。TCER 定例研究会は、フェロ
ーの方はいつでも参加できます。今年度後半の開催は以下の通りである。

第 13 回 8 月 21 日（金）12:00～13:00

John P.Tang（Senior Lecturer, Australian National University）

The Engine and the Reaper:The Impact of Industrialization on Mortality in Early Modern
Japan

第 14 回 9 月 7 日（月）17:30～18:30

小西秀樹（早稲田大学政治経済学術院教授）

Unenforceable campaign promises and coordination in performance voting

第 15 回 9 月 8 日（火）14:00～18:00

アミハイ・グレイザー（カリフォルニア大学アーバイン校教授）

Signaling, Network Externalities, and Subsidies

富蓉（早稲田大学経済学研究科後期博士課程）

Does Marriage Make Us Healthier?Inter-country Comparative
Evidence from China, Japan, and Korea.

小川光（名古屋大学大学院経済学研究科教授）

Occupational Choice in the Tax Competition Model (tentative)

宮崎智視（神戸大学大学院 経済学研究科 准教授）

The Interaction between Public and Private Investment:Evidence from Japanese Prefectures

第 16 回 10 月 9 日（金）16:30～18:00

古川雄一（中京大学 経済学部 准教授）

Inflation,Unemployment and Economic Growth in a Schumpeterian Economy

第 17 回 10 月 16 日（金）17:00～19:00

高橋遼（早稲田大学高等研究所助教）

Impact of a coffee certification program on forest degradation in Ethiopia:

Along with the research plan of social experiment using the vending machine in Japan

第 18 回 11 月 4 日（水）16:30～18:00

祝迫達郎（大阪大学大学院経済学研究科准教授）

Product cycles and growth cycles

第19回 11月18日(水) 16:30~18:00

中元康裕 (関西大学総合情報学部准教授)

The Elasticity of Intertemporal Substitution and the Wealth Distribution in a Global Economy

第20回 11月24日(火) 16:30~18:00

上條良夫 (高知工科大学経済・マネジメント学群准教授)

Hearing the voice of future generations: A laboratory experiment of "Demery voting"

第21回 11月26日(木) 18:00~20:00

徳永佳奈恵 (東京大学海洋アライアンス特任研究員)

Institutional evolution in fisheries management: Scarcity and intensity of governance

第22回 12月2日(水) 16:30~18:00

村田安寧 (日本大学総合科学研究所教授)

New trade models, elusive welfare gains

(joint with Kristian Behrens and Yoshitsugu Kanemoto)

第23回 12月15日(火) 16:30~18:00

Parta Sen (Delhi School of Economics Professor)

Anyone for Social Security Reform?

第24回 12月17日(木) 18:10~19:40

横尾英史 (国立環境研究所研究員)

Altruism behind Recycling: A Substitute for an environmental Policy?

第25回 12月21日(月) 16:30~18:00

近郷匠 (福岡大学経済学部准教授)

Comparison of marginalism and egalitarianism under the equal effect of players'

nullification on the others: Axiomatizations of the equal surplus division and equal division values

第26回 1月19日(火) 10:40~12:10

今井晋 (シドニー工科大学准教授)

In-Utero Social Interaction of Twins

第27回 1月22日(金) 16:00~17:30

大石尊之 (青森公立大学経営経済学部准教授)

仲介取引市場の経済分析

第28回 1月29日(金) 16:30~18:00

三浦慎太郎 (神奈川大学経済学部 准教授)

Manipulated News Model: Electoral Competition and Mass Media

第29回 2月25日(木) 17:00~18:00

Daniel Martin (Assistant Professor, Northwestern University Kellogg School of

Management)

Complex Disclosure

第30回 3月17日(木) 15:20~16:20

花木伸行(ニース・ソフィアアンティポリス大学経済経営学部教授)

The strategic environment effect in beauty contest games

(7) 特別プロジェクト「アベノミクス」報告

TCER(東京経済研究センター)では、2013年度より特別プロジェクトとして「アベノミクス」を立ち上げている。アベノミクスは、その政策目標をデフレ脱却と経済回復と位置づけ、国内だけでなく海外からも高い注目を集めている。ただ、その開始から3年余りが経つなか、その効果には賛否両論があるだけでなく、足元では物価が依然として低迷を続けるなど、さまざまな問題点も明らかになりつつある。

TCERでは、学術的観点からこの問題を取り上げてTCERフェローを中心に研究を進め、初年度には『日本経済新聞』「ゼミナール」(2013年10月)に一般向けの解説記事を執筆すると同時に、2014年度と2015年度には、それぞれ国際学術誌 *Journal of the Japanese and International Economies (JJIE)*, Volume 37 (September 2015)と *The Developing Economies (DE)*, Volume 54, Number 1 (March 2016)に特集号を公刊し、「アベノミクス」の「3本の矢」が日本国内経済に与えた影響を分析した研究論文と、「アベノミクス」など非伝統的経済政策が新興国など対外経済に与えた影響を分析した研究論文をそれぞれ収録した。JJIEの特集号には、「アベノミクス」の「3本の矢」が日本国内経済に与えた影響を分析した6本の研究論文を収録した。一方、DEの特集号には、「アベノミクス」など非伝統的経済政策が新興国など対外経済に与えた影響を分析した5本の研究論文を収録した。いずれの特集号も、学術的観点から「アベノミクス」など非伝統的経済政策の意義を分析し、興味深い結果を導いたといえる。

2016年度は、本特別プロジェクトの最終年度として、欧米から多数の研究者を招聘し、総まとめの国際会議を開催する予定である。今日、日本を含めて多くの主要国が、共通して「デフレ」や「長期停滞」などの問題に直面している。そこから脱却するために、「アベノミクス」のような経済政策はどれだけ有効なのだろうか。会議では、このような問題意識のもとで、関連テーマに関して議論を行う予定である。なお、会議の成果は、国際学術誌 *Journal of International Money and Finance* の特集号として公刊することを計画している。

編集後記

寒さも少し和らいでまいりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。2015年度2号目のニュースレターをお送りいたします。お忙しい中、執筆下さった理事やコンファレンス主催者の方々に感謝申し上げます。来年度もTCERをどうぞよろしく願いいたします。

Newsletterに関するご意見やご感想は代表理事小西秀樹 h.konishi@waseda.jp
または総務理事近藤絢子 akondo@ynu.ac.jpまでご連絡下さい。

=====

公益財団法人 東京経済研究センター
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 703 号室
Tel & Fax 03-3239-2524 Email: tcer@mbs.sphere.ne.jp